1ページ。　P.M二ユース。　1931.4.18発行。

市外上落合　四六〇
日本プロレタリア
音楽家同盟発行

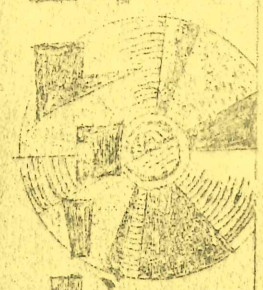
大会近づけり！

全同盟員研究生諸君！
一路帝国主義戦争へと狂奔してゐる支配階級は産業合理化、十万に余る失業者群、プロレタリアートに対する狂暴な弾圧等々くつがへり行く資本主義の末路を抱へて益々深度を加へる恐慌の渦の中に死にもの狂ひの姿を現してゐる。
更に労働者農民大衆は全世界至る所に於いて階級的地盤に於ける勇敢なる闘争、示威運動の波を高めてゐる。
此の時に当つて我が同盟は第一回大会を行はんとしてゐるのである。一九三〇年度の我々の活動の厳正なる批判の上に確立される活動方針が計議されるのだ。一九三〇年度に於いて押し進められた我々の到達の諸成果を取り上げ更に〳〵前進させて行かなければならないのだ。ふみ出した一歩を更に根づよくふみこたへて行かなければならないのだ。
委員会はその準備を進めてゐる。我々の大会は我々のものである。全メムバー全力をあげて我々の大会を守れ！
全同盟員研究生諸君！
大会近づけり！　油断するな！

第一回公開プロレタリア大音楽会は何に動かれたか？

去る三月二十九日、晝夜二回にわたつて築地小劇場に開かれた我が同盟の第一回公開プロレタリア大音楽会はあらゆる意味に於いて我々の活動を更に一歩進め労働者農民大衆の間に根づき基礎を張り非常に重要な意義を有した。
準備の点に就いては最初計画されてより全同盟の間に委員会の意向が徹底しなかつた点、準備委員会が持たれなかつた点が批判された、出来ると思つてゐても経験の少い書記局だけでは荷が重すぎる。
当演する合唱隊、器楽班では一週間前から特別大練習をも夜続けに行つた程、その他にはとんど全員が朝から夜中まで仕事をして居る為めに二つあつてそれ程多い稽古すらも思ふ様にさせなかつた。第一回の時と異り諸々の場面が我々の手で切りひらかれた点を今後の公開活動に大きな教訓を残した。
準備万端とゝのひその前日になつて一名の同志は音楽会の宣伝ビラを撒いてゐる際野バンる官犬の手に捕つて行かれ当日の独奏四重奏に参加し出演する事が出来なかつた。
我々の予定したプログラムには二十一曲のうたと三つの器楽曲があつたが当日許可されたうたはその中たつた九曲だ、此処でも横暴な資本家地主階級の犬は官に無茶なカット振りを示してゐる。
だが当日押しよせた入場者はヒルヨル共で官に七〇〇数拾名その中の労働者諸君は四〇〇名近く我々の音楽会に来たのだ。たつた九曲いれうたへるべく労働者諸君の期待を破つた我々は続いてあらゆる機会にあらゆる場面で禁止を食つたうたを守りぬいて諸君の前に堂々とうたひ踊く時を待つて別れた。
プロレタリアの音楽会万才！

P.M.レコード



我々のうたの発表形式の一としてLPねじから計画されてレコード吹込が愈々実現されるぞ！。我々のP.Mレコードは何処でという言が出るだろうか？その返答（反響）はこうだ。

「我々のP.Mレコードは飽くまでも闘争の武器として労働者農民自身がその日常の闘争生活の中から作り上げられてゆく闘争場裡に於いて奪い取るその始めと終りに蓄音器にかけるとゝもにストライキの時そのたゝかいに置きレコードに合せて皆でうたうもゝなまれてこそ始めてP.Mレコードの意義があるのだ。」

このレコードの予約募集を発表して以来約半月の間に実に百枚に近い申込を受けてゐる。だが更にこのP.Mレコードの意義を全国津々浦々の労働者農民諸君にうたへ日本の幻論の事全世界に我々のレコードを響かせろ！

P.M.レコード No.1

四部合唱 { メーデー歌、ラ、ハ行進曲、

吹込 日本プロレタリア音楽家同盟 合唱隊

場所 東京方面 新築地劇場

定価 一枚 80銭 送料 市内10銭 地方15銭

予約しろ！

メーデー カンパ

彼我の正に爆発せんとする客観的形勢にあって今年のメーデーが近づいた。我が同盟ではメーデー歌を中心とした小公演形態の音楽会を江東、芝方面数ヶ所に於いて行ふ。この公演には第二回音楽会のdress判会の時に言はれたテーマ音楽会の試みとして一つのメーデーと言ふ統一されたテーマのに依って曲目を編成するのだ。

☆プロ歌曲集が出るぞ！

俺たちのうたを知りたい、闘争歌を習ひたい、おぼえたいと言ふ要求を幾百回となく聞かされた。歌曲集は無いかとの問合せも沢山受けた。此れも充分に満すために昨年編輯したものを土台にして更に好き我々の歌曲集として出版する。

第一に値段の高いのは一度にそれだけは出し、憎りを言ふ点今度は一部の定価を安くして内容の収められた曲目の数を少し減らす事にした。第一輯、第二輯共に約十曲目が収められる。其の他掲載に便にするため形を極小半紙四ツ折ポケット型、楽譜つきにする。

☆戦旗5000号カムバック

戦旗を守れ！

発禁、押収、社員検束など自己の身を犠牲にしても勇敢に闘ひつゝ我々の戦旗を守って発行を続けてゐるそれと共に死守する読者大衆のカムバックを期待するとゝもに作家同盟詩研究会に依って作られたうたが最近作曲発表される。

☆プロレタリア研究会歌集

合唱曲以外に特に設けられたプロレタリア研究会は講師の都合でしばらく休んでゐたが今回改めて又活潑に持たれてゐる。

「団結の力」の成績は第一回としては非常に好く研究された。「団結精要」の表情研究、「おれは鍛冶屋」「自由ロシヤ」讃歌のゼスチュア等合唱班のナンバーも熱心に研究を続けてゐる。

合唱班

☆音楽会の直前一週間と言ふもの猛烈に晩練習を行ひ、おびただしい元気で会をひたい抜りた。その為その疲れをなぐめる日、吸込を行つた。メムバーの数がいそがしい為、新規加入者の数名に旋律を受けたのだが技術的にはまだ〳〵未熟である事は止むを得ないとしても、すでに我々の斗争歌として取り上げられてゐるうたの歌詞をよくおぼえてゐない者がゐる。労働者の方はもう大によく知つてゐるが合唱班員は我々の到る斗歌の歌詞を知らないでは済まないぞ。技術的に不熟となり八ヶ一回の音楽会の時よりはるかに良く上つてゐる事はたしかだ。だが更に進めて行かなければならない我々の技術はここまで出来ればそれで好しと言ふ事は絶対にないのだ。その意味で音楽会直後の班会では合唱技術を高めて行くためには在来の合唱曲及び外国の特に現在のロシアの曲に依つて練習を続けて行く事になつた。其の為に我々の方に於ける発声法の研究がなされる。又移動の時の歌唱の方法、ゼスチユア研究等、音楽会批判を含めて今後の移動に合同に実践せんと練習研究に努力してゐる。

作曲班

☆去年から音楽会の曲目のための作曲派動が計画してゐたが充分に果されたとは云へ。音楽会の作曲活動が為されたが、この音楽会に新に作曲されて行はれたのは合唱曲二つ、器楽曲三つだけだ。それに外国のものゝ歌を除いて使ふ場合でも作曲家と詩人の協力による新作曲が多く今なほ残つてゐる。最近活動としてはかなり積極的な作曲家としてのうたの作曲家練習所の作曲、一九三一年版日本のはしなりや詩集への作曲提供、大衆歌、新しい技術者と協力して活動してゐる。

全同盟の新生諸君！諸君はすでに同盟費がいくらで何時出さなければならないか知つてゐる筈だ。たゞいまだその集り具合は、殊に四月分はまだ二三人しか出してゐるなり。我々の活動は経済的には諸君れの同盟費納入を要求する。

☆予約募集のレコード及歌曲集の申込中一回の締切は四月二十日だドシドシ申込め！それ以後ドシドシ申込んで来るだけ予約金を希望す。

☆前記のごく同盟費研究費滞納者は四月中に全部納入くれ。四月一杯にまとまつた金が入つた者の中から抽籤の上、特別賞を与へる。

☆太会は五月中旬の予定だ。用意はいゝか。一九三一年ナップの運動方針書を大衆的討議に上せてプロレタリア音楽運動の城塞を守れ！

☆第三回技術批判会は五月上旬に持つ予定だ、各自曲目を研究せよ！